

事前
登録制
オンラインイベント
Microsoft Teamsでの開催

2020
12/12 土
13:00-15:30

防災 x SDGs

持続可能な開発に 資する防災とは

高知大学は、2015年に国連サミットで採択されたSDGs (持続可能な開発目標) の達成のために様々な活動を行っています。特に地域を創生することを目標に掲げ高知大学では、「地域の持続可能な開発」を意識した活動を行っています。もちろん「防災」も「地域の持続可能な開発」を目指した活動です。そこで本シンポジウムでは、高知大学の行う防災に関する取組と、SDGsの関係について事例を挙げて紹介し、本学の防災に関する取組の将来像を指し示す一助とします。

※申込み方法は裏面をご覧ください



Program

本シンポジウムは、内閣府地方創生SDGs 官民連携プラットフォーム地域産学官社会連携分科会(事務局:科学技術振興機構)の活動の一環として開催

開会の挨拶 櫻井 克年(学長)
趣旨説明 笹原 克夫(防災推進センター長)

第一部 高知大学の防災への取組とSDGs

- ① 感染症流行時の避難所の課題 西山 謹吾
- ② 木造住宅の耐震化と木造ビルの開発 野口 昌宏
- ③ 過去の気候変化から予測する
温暖化進行後の地球環境 長谷川 精
- ④ 持続可能なカツオの利用を目指して 吉用 武史

第二部 「地域の持続可能な開発」を目指す 高知大学の防災活動とは?

基調講演

⑤ SDGsと科学技術イノベーション 山田 浩貴
(JST経営企画部 持続可能な社会推進室 調査役)

⑥ 現場からみた大学と地域の
連携による持続可能な開発 梶 英樹

パネルディスカッション

閉会の挨拶 本家 孝一(理事(研究・医療・評価担当))

事前登録制 オンラインイベント

防災×SDGs

持続可能な開発に資する防災とは

申込方法



- 二次元バーコードから専用申込フォームへアクセス
- 登録頂いたアドレスに参加方法等を記載したメールを送ります。

ご注意 kk03@kochi-u.ac.jpのメールが受信できるようにご設定ください。

Program 詳細

第一部 高知大学の防災への取り組みとSDGs

1 感染症流行時の避難所の課題

西山 謹吾 (高知大学)



避難所の環境は、体育館で雑魚寝状態というのが当たり前と考えられてきました。しかし新型コロナウイルス感染症が流行し、避難所でも三密は避けなければいけないことが指摘され始めました。感染症のおかげで避難所の環境整備にメスが入れられようとしていることは何とも皮肉な結果であるが、これをきっかけに避難所の課題を考えてみたいと思います。

2 木造住宅の耐震化と木造ビルの開発

野口 昌宏 (高知大学)



自然災害が来れば木造住宅の被害をニュースでよく見ます。進まなくて社会問題化している既存木造住宅の耐震性不足の問題に対して、日曜大工感覚で住んでいる人が自分で工事できる簡易な耐震補強方法の開発を紹介します。また、新築建築用の、低CO₂で且つ快適で安全な空間構成が可能な、木造ビル建築を目指した部材の高強度化の開発例も一部紹介します。

3 過去の気候変化から予測する温暖化進行後の地球環境

長谷川 精 (高知大学)



大気CO₂濃度の上昇に伴う地球温暖化により、最近観測史上初と言われる異常気象が頻発するなど、地球の気候は人類が未体験のモードに入っています。我々は、過去の地球で起こった温暖化イベントにおいて、東アジア中緯度域の気候がどのように変化したのかを調べています。そして、温暖化進行後の地球環境の予測を試みています。

4 持続可能なカツオの利用を目指して

吉用 武史 (高知大学)



カツオは熱帯域から日本近海まで広く分布し、多くの国で漁獲されますが、来遊メカニズムはよく判っていません。近年、日本近海への来遊が減少しているとの声もあり、カツオの持続的な利用を目指して漁業者や自治体、企業が集う場として「日本カツオ学会」を設立しました。当学会の活動と防災との関わりをご紹介します。

第二部

「地域の持続可能な開発」を目指す高知大学の防災活動とは？

ファシリテーター

第一部と第二部の取組を基に、今後の高知大学の防災への取組の中で、地域の持続可能性を高めるための考え方をパネルディスカッションで議論します。

笹原 克夫
(高知大学防災推進センター長)

5 SDGsと科学技術イノベーション

山田 浩貴 (国立研究開発法人科学技術振興機構 調査役)



SDGs達成に向けて「科学技術イノベーション」は重要な役割を期待されています。SDGsと科学技術イノベーションの関係性を国連など様々な調査報告書から考察するとともに、課題解決のための研究開発を推進しているJSTの具体的な取組から、SDGsに貢献する研究開発ならびに科学技術イノベーションについて考えます。

6 現場からみた大学と地域の連携による持続可能な開発

梶 英樹 (高知大学)



高知大学と地域との連携を現場に密着しながら推進する地域コーディネーター(UBC)の活動を通じて、最近では地方創生に加えて、「持続可能な開発」をキーワードとした連携ニーズが高まってきています。現場サイドの視点から大学と地域との連携実践の事例を紹介しつつSDGsの達成に向けた大学と地域の連携のあり方について探ります。